S I A S R (Saitama Infectious Agents Surveillance Report)

2010年11月10日

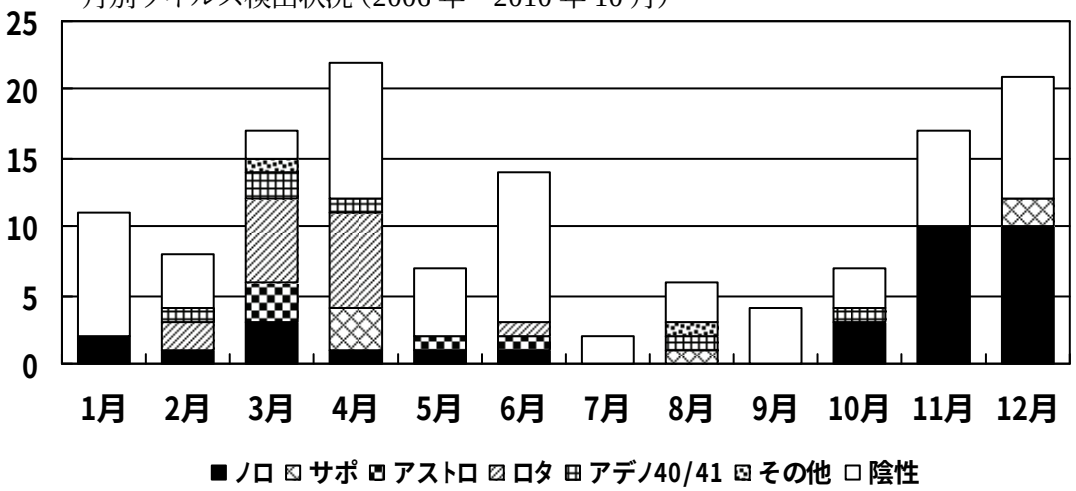
感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は様々な病原体によって起こりますが、ウイルス性の場合、主要な病原体はノロウイルスとロタウイルスです。2006 年から 2010 年（10 月まで）の間に採取された感染性胃腸炎患者糞便から検出されたウイルスについて、年別、月別検出状況をまとめました。各年ともノロウイルス、ロタウイルスが多く検出されていますが、サポウイルスやアストロウイルスも検出されています。

また、月別検出状況では、ノロウイルスは夏季を除き毎月検出されていますが、やはり、11 月、12 月が多くなっています。ロタウイルス、アデノウイルス 40/41 型はノロウイルスの検出数が少なくなってきた 2 月から 4 月にかけて多く検出されています。サポウイルス、アストロウイルスはロタウイルスよりもさらに遅れて流行していたと推定されます。

2010 年は現在のところ、サポウイルス、ロタウイルス、アデノウイルス 40/41 型、パレコウイルスが検出されており、今後の動向が注目されます。ノロウイルス、ロタウイルス以外のウイルスの流行状況を把握するためにも、病原体定点医療機関での積極的な検体採取をお願いいたします。

年別ウイルス検出状況

年	検体数	ノロ	サポ	アストロ	ロタ	アデノ 40/41	その他
2006	20	6	1			1	
2007	42	13	1	4	6	2	
2008	30	9	1	1	4		
2009	20	4	1		4	1	1（アデノ 31 型）
2010	24		2		2	2	1（パレコ）

月別ウイルス検出状況（2006 年～2010 年 10 月）